

人権ほっと29年5月号

「就職活動を通じた成長」

大阪教育大学准教授

安達 智子

街のあちこちでリクルー
トスーツに身を包んだ就活生
を見かける季節になりました。
彼らの姿から反射的に私の頭
のなかで自動再生しだすのが
『就活狂想曲』、就活に呑み込
まれていく学生の戸惑いが表
現されたアニメーションです。
会社説明会に殺到する就活生
たち、彼らの個性を損なうよ
うな服装や髪型、そして就活
本に書かれたとおりの振る舞
い・・・例えば就活では、話
を聴く時には頷きながらメモ
をとることなど、細かにわた
って行動がマニュアル化され
ています。学生が違和感を覚
えるのも無理ありません。
一方、就活が社会人になる
ための準備期間となる点は見
逃せません。例えば学生のと
きの服装や髪形は好みや自己
表現で良かったのですが、就
活や仕事では、相手にどの様
な印象を与えるかという視点
が欠かせなくなりそうです。また、

仕事場面で話を聴くときには

「あなたのお話しを聴いてい
ます」「了解しました」という
ことを態度や行動で示すのが
生産的に話を進めるためのポ
イントになることもあります。
このように細かすぎて煩わし
い就活マナーも社会人になる
と役立つ時がくるはずですよ。
もう一つ大事なことは、学
校という守られた空間で過ご
してきた学生が、就活を通じ
て自分を守るようになるこ
とです。例えば、面接で交際
相手の有無や結婚の予定につ
いて尋ねるのは就職差別につ
ながる不適切な行為です。答
えられない就活生に非はあり
ません。また、労働者を保護
するための法律や権利を知る
こと、ブラック企業や従業員
を大切にしない会社を見分け
ること、活動中や内定後に権
利が侵されたならば声をあげ
たり支援を求められるように
なることも大切です。

就職活動が、学生から脱皮
して社会へ出ていくための成
長機会となりますように！